

<福祉作文の部>

最優秀賞

「バリアフリーについて考えよう」

涌谷中学校 3 年 松 岡 美 羽

日常生活の中でバリアフリーという考えは人を思いやることだと思います。

しかし、バリアフリーには良い点ばかりではなく悪い点もあります。

良い点は、障がい者への考え方が変わったこととお年寄りや妊婦さんへの負担を考えた取り組みがあり、多くの人が配慮のある行動を求められるようになったことです。

障がい者への考え方が変わったということは点字ブロックや点字といった方法が目が見えなくても普通に生活できる方法を考え出せたことにもあらわれています。

そして今ではお年寄りや妊婦さんを考えた駐車場や優先席といった取り組みがありとても思いやりがある日本の社会ができあがっています。

しかし反面、そのバリアフリーが様々な問題を引き起こしています。バリアフリーと知りながらそれを無視する若者が多いことです。

例えば、電車にある優先席。その優先席はお年寄りや妊婦さんのためにあるのに若い人たちがすわってしまい優先席の意味がなくなってしまうという報道を見聞きすることが少なくありません。そのようなことがないように、人々の考えをもっともっと変える教育が必要だと思います。

また、障がい者や妊婦さん、車いすの人のための駐車場に何にも支障のない人たちが駐車していることも同じ現象です。人にはさまざまな事情があります。それでも、やはりバリアフリーは、ハッキリと障がい者のためのものだと、私たちは考えなければなりません。

このような良い点や悪い点をふり返ってみてみると、自分だけよければよいという考えだけではないと思いますが、優先されるべき人は誰かということを常に考える必要があります。

私は、電車で遊びにいくときはあまり席にすわらずに立つようにしています。

そうしたある時お年寄りの方に

「えらいね。ありがとう。」

といわれたことがあります。お礼を言われる行為だとは思わなかったのでその時は、とても嬉しかったです。

ささやかな思いやりが障がいのある人にとってとても良いことだと実感しました。また自分の常日頃の行いが思いがけず他人のためになり自分も気持ちの良い時がすごせたことが嬉しかったです。

思いやり。それは、人が人へとする配慮。

そして、気持ちなんだと思いました。

私は、そのような問題点をふまえ、優先席や障がい者の駐車場へのつかいかたについて知ってもらえるようにできるだけ声をかけていきたいと思っています。